

2018
7-9
月期

京都企業の
BSI値
Business Survey Index

西日本豪雨災害、猛暑等の影響により、
国内景気BSI値は前回予想を下回る。
原材料価格の上昇、物流コストの増加等で、
自社業況は下降

実績

《国内景気》 今期の国内景気BSI値は、西日本豪雨災害、
猛暑等が影響したため、前回予想値を下回る

予想

《自社業況》 原材料価格の上昇、物流コストの増加等で、幅広い業種の
収益を圧迫したため、ほぼ全ての業種で業況が下降した

規模別
の業況

《国内景気》 米中貿易摩擦を懸念する声も聞かれ、
先行きに対しては慎重な見方が広がる

《自社業況》 人手不足の長期化、人件費負担増大等が懸念され、
先行きに不透明感が見られる

POINT

今期、大企業は上昇するものの、中小企業は下降
今後、大企業・中小企業ともに大幅に上昇するものの、
その後、大企業ではほぼ横ばい、中小企業では下降に転じる見込み

《国内景気 BSI 値》

1.3

概要

《自社業況 BSI 値》

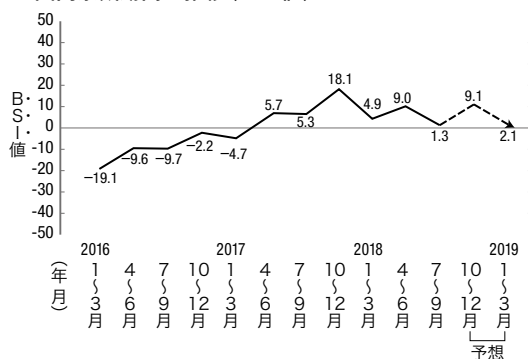
▲5.1

今期の国内景気 BSI 値は1.3(前期実績9.0)と
上昇幅は縮小した。西日本豪雨災害、猛暑等が影響
したため、前回予想値(6.4)を下回る結果となっ
た。業種別で見ると、半導体の需要増により、一部
の製造業が景気をけん引するものの、春の需要期
の反動で旅館・ホテル等は下降するなど、業種間で
バラツキが見られた。年末の需要期を迎える10～
12月期は9.1と幅広い業種での上昇を見込むもの
の、続く2019年1～3月期は2.1と上昇幅は再び
縮小すると予想する。米中貿易摩擦を懸念する声
も聞かれ、先行きに対しては慎重な見方が広がっ
ている。

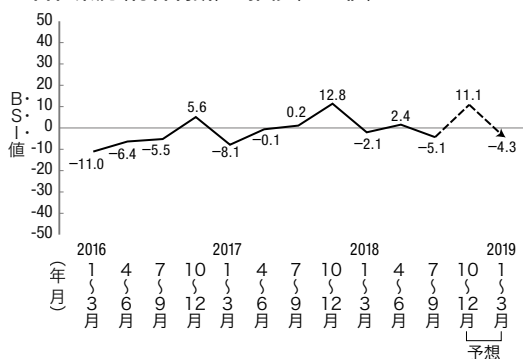
今期の自社業況 BSI 値は▲5.1(前期実績2.4)
と下降した。特に、原材料価格の上昇、物流コスト
の増加等で、幅広い業種の収益を圧迫したため、ほ
ぼ全ての業種で業況が下降した。なお、猛暑で衣料
等の販売が好調であったアパレル、百貨店等の業
況は堅調に推移しているとの声も聞かれ、一部で
明るい材料も見られた。

年末の需要期を迎える10～12月期は、11.1と
大幅な上昇を見込む。続く2019年1～3月期は▲
4.3と下降を予想する。人手不足の長期化のほか、
雇用確保のための人件費負担増大など経営上の問
題は山積しており、不透明感が広がっている。

★国内景気動向の推移(BSI値)



★自社業況(総合判断)の推移(BSI値)



※自社業況(総合判断)は、「生産・売上高、工事施工高」から
「資金繰り」までの6項目を総合的に判断したもの。

★B.S.I. 値の総括表

		実 績		予 想	
		2018年4～6月期	2018年7～9月期	2018年10～12月期	2019年1～3月期
京都企業の 経営動向	国内景気動向	9.0	1.3	9.1	2.1
	自社業況(総合判断)	2.4	▲5.1	11.1	▲4.3
	1 生産・売上高、工事施工高	2.5	▲5.0	11.8	▲2.5
	2 製・商品・サービス・請負価格	7.0	4.2	5.5	1.5
	3 経常利益	▲2.1	▲7.3	6.2	▲5.5
	4 所定外労働時間	▲0.2	▲4.5	7.3	▲0.5
	5 製・商品在庫	5.1	6.3	5.2	4.0
	6 資金繰り	3.3	▲1.6	1.0	▲2.4

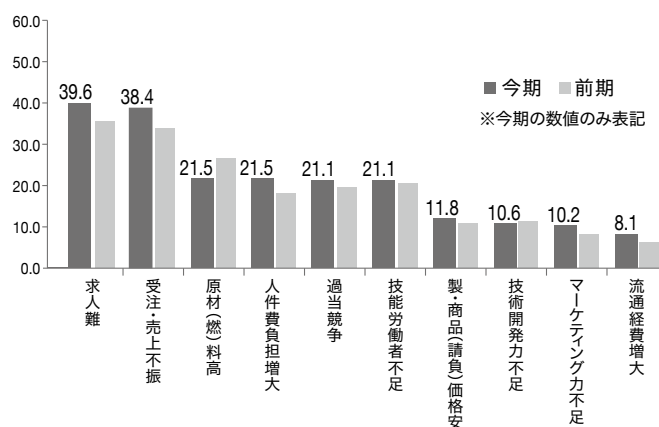
※B.S.I. 値=(上昇[増加、他]-下降[減少、他])×1/2

(注)7～9月期のBSI値は、
2018年4～6月期の景況感を
基準に強気なら「プラス」、弱
気なら「マイナス(▲)」で表
している。算出方法は、上昇回
答から下降回答を差し引き、2
分の1を乗算。

(注)7月下旬から8月上旬に
かけて同調査を実施し、566
社中432社から回答を得た
(対象は、京都府内に本社、本
店を持つ企業)。

当面の経営上の問題点

第1位は「求人難」(39.6%)、第2位は、「受注・売上不振」(38.4%)、第3位は、「原材(燃)料高」(21.5%)及び「人件費負担増大」(21.5%)であった。5期連続で「求人難」は第1位の問題点として認識された。前回第6位の「人件費負担増大」は第3位に上昇するなど、人手不足長期化に伴う、雇用確保に係る企業負担が増加している。



(19項目より3項目以内回答、回答企業数%)

ピックアップ 調査結果のポイント

付帯調査 事業継続計画(BCP)について

— BCP を策定している企業は約2割。策定に向けたノウハウの共有が課題 —

企業が災害等の不測の事態に遭遇しても、取引先等に対する製品・サービスの供給責任を果たすための対応を文書化した「事業継続計画(BCP)」について、今回調査を行った。

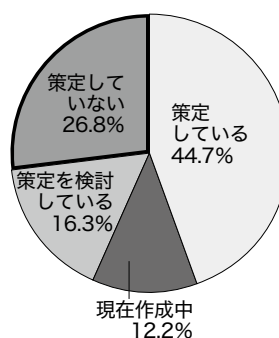
◆事業継続計画の策定状況

「策定している」と回答した企業は23.9%に留まった。また、規模別では、中小企業(15.3%)よりも、大企業(44.7%)で「策定している」との回答が多かったが、いずれも半数を下回っていた。

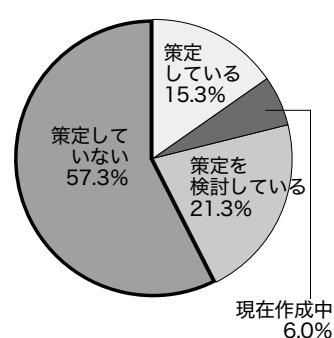
〈全体内訳〉

- ・「策定している」と回答 23.9%
- ・「現在、作成中」と回答 7.9%
- ・「策定を検討している」と回答 19.9%
- ・「策定していない」と回答 48.5%

〈大企業〉



〈中小企業〉

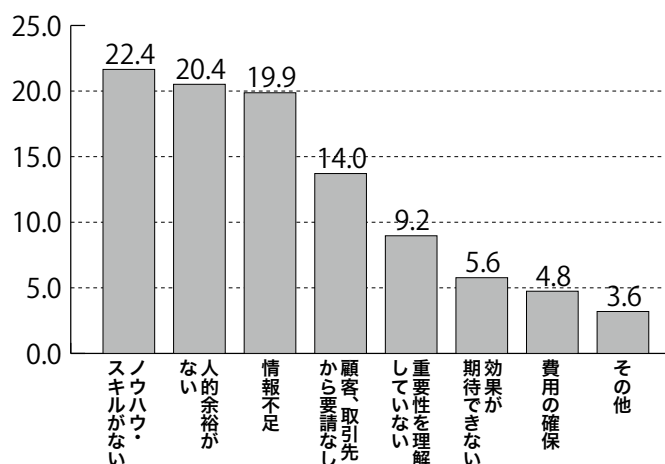


◆策定していない理由

「策定するノウハウ・スキルがない」が22.4%、「策定する人的余裕がない」が20.4%、「策定に必要な情報が不足している」が19.9%の順に多い結果となった。

◆企業からのコメント

- ・災害が頻発しているため、より充実した BCP の策定が急務だ。(化学・ゴム)
- ・実際に災害があった際、BCP に基づきどのように行動するかが重要である。(建設業)



お問合せ先

本 所
中小企業経営支援センター
TEL:075-212-6467

調査結果概要は、本所ホームページからダウンロードできます。

京都商工会議所 BSI 値

